

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100483		
法人名	有限会社ケアサービスおちあい		
事業所名	グループホームかんとう		
所在地	秋田市檜山川口境11番17号		
自己評価作成日	令和7年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokukka.nsf/aOpen?OpenAgent&amp;JN0=0590100483&amp;SVC=0001096&amp;BJN=00&amp;OC=01">https://www.wam.go.jp/wamappl/hvoka/003hvoka/hvokukka.nsf/aOpen?OpenAgent&amp;JN0=0590100483&amp;SVC=0001096&amp;BJN=00&amp;OC=01</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和7年3月5日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

川口境街区公園の隣に「かんとう」はあります。公園には桜並木があり、夏には事業所にも竿燈ばやし聞こえてきます。平成24年4月1日の開設で、認知症ケア研修の他、虐待や身体拘束に関わる研修などを月に1度の割合で行っております。また、認知症に対する接し方や病気の理解を深め、資格取得や勉強会を開催し、サービスの質の向上を目的とした教育を行っております。定期的に主治医と薬剤師がホームを訪問し、薬の調整を行っております。入居者様一人一人の尊厳を守ること、そして本人の能力に応じて自立した日常生活を送れるように支援すること、その人らしさを出せる環境や雰囲気作りに努めております。また、ご家族様とも密に連絡を取り合いながら、信頼関係を築き、安心して頂けるように努めております。地域との関わりを持ちながら住み慣れた場所で、聞き慣れた音や見慣れた風景。四季の流れやにおいを感じられる。そんな場所で、人生を最期まで、その人らしく生き生きと楽しく過ごして頂ける、そんな人生を常に考えサポートしていきます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員と利用者との信頼関係ができていいる様子が日常の職員の利用者への関わり方から感じ取ることができます。家族との関わり方にも配慮して信頼関係を築き、ホームの運営に活かしたいと努力しています。日々の関わりをアセスメントに繋げ、在宅時と変わらない過ごし方ができるように支援しており、竿燈会の方々や民生委員等、関わってくれる方が多いこともホームにとっては心強い環境といえます。管理者が中心となってユニット間の連携を図り、より良い支援に繋げていくことができるよう取り組んでいます。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20) ○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15) ○
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14) ○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16) ○
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19) ○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
50	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:30) ○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10) ○
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41) ○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25) ○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関やホールなどに掲示している。各ユニットで、朝の申し送り時や会議前に唱和し、職員全体で共有し、一つの目標に繋げ実践している。	理念は具体的な内容が3項目にまとめられ、唱和することで共有し、支援の目標としています。次年度には理念を新たにすることを検討しており、以前と同様に職員と話し合っ作成することにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	竿燈祭りでは川口境の竿燈会がホーム前で披露され、夏祭りでは隣接する川口街区公園に出店が並び、近所の方も見物に来られる事が定着している。竿燈会の皆様が、ホーム周辺や敷地内の草刈り等、整備をされている。	公園が隣接しており、子ども達の声が聞こえる環境にあり、草刈りを手伝ってもらう時には職員も一緒に作業しています。竿燈の披露が定着していることで地域の一員としての交流が続いています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議等を報告し、認知症の方への理解や支援の方法を地域の方々に伝え、地域貢献している。秋田市からの行方不明者の捜索願も地域包括や町内会長、民生委員、ご家族様へ連絡を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居状況やホームでの普段の生活の様子を報告している。町内会長・民生委員・入居者様のご家族様や地域包括支援センターの方々からの意見を戴き運営の参考にし、サービスの向上に活かしている。	コロナ禍で文書による会議となっていました。対面会議が再開されています。会議で現状を報告することでホームの理解に繋がっていると共に、地域情報を得る場ともなっています。	会議を運営に活かすためにも、報告や情報交換にとどまらず、サービスや災害対策に繋がる有効な機会と捉えて進行の仕方に工夫されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の保護課担当者と密に連絡を取り、積極的に事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力関係を築いている。運営推進会議には地域包括支援センターも参加し、主催する研修にも参加し活用している。	市役所担当窓口に出向き、随時連絡、相談をしながら良好な関係を築いています。包括とも情報交換しながら協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び虐待についての研修会や随時カンファレンスを実施している。身体拘束委員会が3ヶ月に1回開催され、委員会の結果について、全スタッフに周知し、研修などで理解を深めるなどし、身体拘束を行わないケアや虐待防止に全職員で取り組んでいる。	職員が資料をつくって適正化委員会を開催しています。更に研修を行うことで職員の理解を深め、ミニカンファレンスも随時開催して身体拘束、虐待をしないケアに取り組んでいます。	
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は秋田県認知症グループホーム連絡会の研修に参加し、理解を深めている。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書の内容を細かに説明している。不安や疑問にはその都度対応し、理解・納得を図っている。		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ご家族様との信頼関係を築き、要望や意見、苦情等を気兼ねなく話せる環境・雰囲気づくりに努めている。 電話連絡にて状況報告を行っており、要望や意見をお聞きし、カンファレンスなどで話し合い、運営に反映している。	気軽に話してもらえる雰囲気づくりに努め、面会時等に話した内容を申し送りノートで周知、共有しています。要望等を受け入れ、状況に応じて対応を検討しながらサービスに活かせるよう努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	会議等で提案したり、意見や要望を汲み上げ、経験年数やスキルアップを目指せるよう、都度状況に応じて対応し、勤務シフトの調整に繋げ、プライベートの充実や、メンタルを上げる努力をしている。	支援内容や備品購入等、日常業務や会議の中で職員の意見、提案が出され、運営に反映させています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田市認知症グループホーム協会への参加を継続している。事例検討や相互訪問の交流を行い、サービスの向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規入居者様には特に、その方の過去の情報収集に努め、ご本人のお話を傾聴し、受容・共感し信頼関係を築けるよう努力している。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時、ご家族様のご要望を聞き、安心出来るよう対応している。入居後も、毎月の生活の様子などを、電話やメッセージカード、写真等、面会時に報告し、ご家族様との連携を密に努めている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントを行い、ご本人様の出来る事と出来ない事を見極め、状況を見ながら、掃除や食事の準備、盛り付け、洗濯物たたみなどを一緒に行い信頼関係を築いている。		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時には状況報告を行っている。整形外科等の病院受診時には、ご家族様も同行したり、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	馴染みの方がホームに訪れたり、電話で会話をされたり、お手紙を頂く事もあり関係が途切れないようにしている。	受診や墓参り等、関わりが途切れないよう家族の協力が得られています。馴染みの床屋さんに行くことが知人に会う楽しみでもあり、訪問理美容の方とも馴染みの関係になっています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性等を見極め、席替えを行ったり、皆で行えるレクリエーションを行ったり、談笑の場を提供する等、職員が間に入り、仲良く過ごせる様、支援に努めている。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域包括センターや居宅介護支援事業所と連絡調整をしたり、契約終了後も、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて介護に関わる相談を受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の出来る事と出来ない事を見極め、定期的にモニタリング、ケアカンファレンスを実施し、ご本人の希望や意向の把握に努めている。更にアセスメントを行う事で、得意な事に携われる様、ご本人の思いに寄り添う配慮をしている。	入浴介助の際や爪切りをしながら、お茶の時間等、日々の暮らしの中で利用者の意向を汲み取り、申し送りノートに記録して共有し、アセスメントに繋げています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問時にご本人とご家族様より、これまでの生活歴等を聞き把握に努めている。ご本人の生活歴を可能な限り継続し個々の生活スタイルで生活が送れる様に配慮し、新しい気づきがあった場合もご家族様へ確認を行いながら生きがいに繋げる様に努めている。		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	定期的にモニタリングを実施し、申し送り時やユニット会議で、その都度、ケアカンファレンスを行い、ご家族様にも現状報告と確認を行い、それぞれの意見を踏まえ、個別介護計画を作成している。	介護計画に沿って記録されており、モニタリングに活かされています。担当職員と介護支援専門員のモニタリング後、他の職員が気づいたこと等、意見を出し合って計画を作成しています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や介護の実践・結果等を日誌や申し送りノート等に記録し、職員間で対応を話し合っている。そして、職員間で情報共有し個別介護計画の見直しに活かしている。		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内等、近隣での季節の催し物に合わせて行事予定を立てている。季節を感じ、人と関わりを持ちながら気分転換ができ、安心して楽しく、豊かな暮らしが出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	居宅療養管理指導を導入しており、入居時にかかりつけ医、薬剤師等への確認を行い、かかりつけ医のメリットを説明し紹介している。かかりつけ歯科医もまた定期的に検診を行い状況に応じて治療を行い支援している。	入居前からのかかりつけ医で受診したいという方には希望に添っており、協力医に変更してもらっている方は了解を得た上で行なっています。歯科は訪問診療が行なわれています。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携として看護師が1週間に1回、バイタルや状況報告書を確認し、入居者様の状態を確認している。緊急時には相談し、協力医療機関や主治医へ報告し、指示や助言を受けている。		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療相談員や看護師、医療関係者と連携を図り、ご家族様とも密に連絡を取り合い、情報交換や相談に努め、スムーズな入院を心がけている。		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重要事項説明書に記載されている重度化対応・終末期ケア対応指針についての内容をご家族様に説明し、同意を得ている。主治医と連携を取りながら、重度化や終末期の状態になった場合は今後のあり方を検討している。	可能な限りホームで生活できるよう支援していますが、機能の低下が著しい場合や医療行為が発生した場合は次の生活の場にスムーズに移動できるよう支援しています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網を作成し、備えている。ケアパートナーズが主催している救命救急の研修への参加、内部研修で定期的に救急法を勉強し、実践力を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	備蓄リストを作成し、災害に備えている。当ホームでは令和5年水害の被害を受け数名の職員が駆けつけ入居者様を避難している。経験を踏まえ、必要な物品や備蓄準備、避難方法の周知等を行い地域との情報交換や協力体制を築いている。	消防署立ち会いの下で火災を想定した避難訓練をしています。職員のみで行なっています。隣家に面した窓には防火シャッターが装備され、近所に避難場所も確保しています。	ホームの立地環境を踏まえ、特に夜間の火災の場合に協力してくれる方を確保し、その役割を決めて具体的な訓練を実施すると共に、砂利の箇所を避難通路として安全に使用できるよう対策を期待します。
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの意思や生活ペースを尊重し、配慮を忘れず、思いやりを持って接し、ご本人らしく生活して頂くため、寄り添い、優しい声掛けを行っている。	馴れ合いの態度に気をつけ、その人に合った声かけ、声のトーンで接するよう心がけています。特にトイレ誘導の際には他の利用者への配慮も忘れず、また、要望があれば入浴時の同性介助にも対応しています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、ご本人の好みに合わせた衣類を選んで頂き、整容、整髪を行い、身だしなみに気を付けている。毎週、爪切りを行い、衛生面に気を付けている。定期的に行き付けの理容店を利用しリフレッシュ出来るよう支援している。		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に出来る事を把握し調理や盛り付け、配膳等を職員と入居者様が一緒に行っている。イベント時は、バイキングやバーベキュー、流し素麺、お膳を提供する事もある。下膳は出来る方が台所まで持って行かれる。	職員手作りの食事が喜ばれています。テレビやチラシ広告を見て利用者と一緒に献立の参考にしたり、食材購入の同行も再開を検討しています。調理中の職員に声をかけたり、調理の匂いが五感の刺激になっています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎食毎に記録を行っており、一人ひとりの状態に合わせた食事形態、水分量を考えて提供している。		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態に合わせて声掛けや見守り、一部介助を行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しており、排泄チェック表を確認しながら、声掛けやトイレ誘導を行っている。 誘導時は、自尊心を傷つけないようさりげなく誘導し支援している。	チェック表を活用し、トイレでの排泄を支援しています。排泄用品を使用していない方には状態が維持できるように、また、使用している方の種類を検討する等、カンファレンスで話し合って支援に繋がっています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを把握し水分摂取量の確認、体操への参加を促したり散歩をする等の適度な運動を行っている。また食事メニューに食物繊維が多く含まれる食材を組み込み工夫している。		
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の体調やその人の希望や状況に合わせて臨機応変に入浴を提供している。入浴剤を使用する等、温泉気分できちんと入浴できる雰囲気作りに努めている。	一人ひとりの好みの湯温や時間帯に対応し、また、好きな民謡を流す等、利用者がゆっくり入浴を楽しむことができるよう支援しています。拒否する方もいますが、声かけを工夫することで入浴に繋がっています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態や生活習慣に合わせて、落ち着いて休めるよう自室やホールのソファで思うように過ごしたり、両脚を拳上する等、ゆっくりとその方らしく過ごすことが出来るよう支援している。		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、目的、用量、用法を個々の薬ファイルにて職員がいつでも確認出来るようにしている。内服薬の変更があれば、業務日誌や申し送りノートに変更内容を回覧している。		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、嗜好品、楽しみ等を全職員で理解し掃除機掛け、モップ掛け、調理や食器拭き、洗濯物たたみ等の役割を持ち、レクリエーションやゲーム、散歩、談笑の場を提供する事で楽しく充実した生活が出来るよう支援している。		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	町内会の竿燈妙技会では敷地内で披露して頂き入居者様全員外に出て観賞されている。夏祭りでは玄関先で流し素麺を提供している。また、ご家族様と一緒に外出出来るよう支援している。	隣の公園に出かけたり、畑作業等で外気に触れる機会をつくっており、少しずつ外出の機会を増やしていくことを検討しています。管理者が所用の際に誘って出かけることもあり、家族と一緒に出かけている方もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	感染対策を行いながら職員と一緒に買い物へ行く機会を作っている。お金をお渡しし、見守りの中、支払いが出来るよう支援している。		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾やレクリエーションで作成した切り絵、お花等を飾り、季節を感じて頂いている。冬季には加湿器の設置、乾燥対策を行っている。汚物による悪臭対策も徹底し、快適に過ごせるよう取り組んでいる。	季節を感じ取れるようその時季に合わせて飾りつけし、利用者同士の関係性を考慮しつつ、外の景色が見える所に椅子を設置する等、利用者が寛げる空間づくりを行ない、その人毎に居心地良く過ごせる配慮をしています。	
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の相性等を考え、座席調整を行っている。また、ホールにはソファを置き、気の合う方同士で、気兼ねなく過ごせたり、ゆっくり過ごしたい時には居室に戻られテレビ鑑賞や横になられたり、穏やかに過ごせる環境づくりに配慮している。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族のフォトフレームを飾ったり、今まで自宅で使用していたテレビやタンスや思い出の品等、ご本人が使い慣れた見覚えのある物を置き、安心して過ごせる居室にしている。	本人と話し合っ持ち物の配置を決めています。定期的に換気を行ない、安心して過ごせる環境づくりが行われています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの生活歴や残存機能を活かして出来る事と出来ない事を見極めている。調理や掃除、洗濯物干しやたたみ、食事後の下膳も毎日出来ている。ご本人の無理にならないよう安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		